

平成25年度

施策評価マネジメントシート(平成24年度の実績評価)

記入年月日
平成 25 年 6 月 25 日

施策No.	政策名	快適で潤いのある生活環境づくり	主管課	農林課	主管課長名	斎藤 守
409	施策名	自然環境の保全	関係課	商工観光課、環境対策課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
	市民	①桜川市人口		人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,469	42,920	41,897	
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449						
見込値														
実績値														
見込値														
実績値														
②市内の森林(里山)が保全され、憩いの場として活用されている ③山林面積		①自然環境を守る行動を行った事のある市民の割合	%		目標値			71.0	71.0	71.0	71.0	71.0	71.0	
					実績値	71.2	70.6	70.4	68.5					
					目標値			25.0	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0	
					実績値	22.7	23.3	24.1	24.2					
					目標値			67.5	67.3	67.1	66.9	66.7	66.5	
					実績値	68.8	67.7	67.2	63.6					
成果指標設定の考え方	○自然環境保全の意識を高めてもらうの指標は、市民アンケートで、①「自然環境を守る行動を行った事のある市民の割合」が増えることで把握する。 ○森林(里山)が保全され、憩いの場として活用されているの指標は、市民アンケートで、②「市内の森林(里山)が憩いの場として活用されている」と答えた市民の割合が増えることで把握する。 ○山林面積が保たれることが、自然環境の保全につながると考えた。													
	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口・1ヘクタール(ha)は0.01Km ² ・①は市民アンケート「自然環境を守る行動を行った事がありますか」のうち「行っている。」と答えた人を回答者数で割った数値。 ・②は市民アンケート「市内の森林(里山)が憩いの場として活用されていると思いますか」と答えた割合。 ・③保全している森林面積は、補助事業、森林組合の事業面積(間伐等)。													

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1) 住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2) 行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○身のまわりの自然を大切に、緑豊かな地域づくりに努める。 ○公園や緑地・親水空間の維持・管理に協力する。除草・清掃などを主体的に行う。 ・道路、河川、湖沼のボガ捨ての処理費も税金が使われることを認識する。(⇒ごみの無い景観) ・河川の水質汚染は、市民の台所から始まることを認識する。(⇒きれいな河川、湖沼)	○市民や事業者に対し、自然環境保全に関する意識の啓発を行う。 ○公園・緑地や親水空間の整備に市民の意見を反映させると共に、維持管理に市民の協力が得られるような仕組みをつくる。
状況変化	3) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4) この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○植林された人工林の管理がますますできなくなり荒れていく。 ○石材業の撤退により採掘場の取扱いが懸念。 ○健康志向により自然の中を散歩するよう人が増えている。 ○CO2削減の取組みとして、全国的に市民主体の植林活動等も行われている。 ○環境意識は高まっている。 ○枯れた松の倒木被害が懸念されている。 ○放射能被害も懸念される。 ○山際地域でインシデン被害が今後も懸念される。	○インシデン駆除の要望がある。 ○市民アンケートによる満足度、優先度調査の結果、満足度は若干低く、優先度は低いほうである。 ○市民レベル(平沢、山尾、高森、雨引山)で、里山の保全活動が行われている。 ○遊歩道(関東ふれあいの道)の整備してほしいとの要望が市外からもある。 ○遊歩道へのオートバイや四輪駆動車の乗り入れがあり、危険である。 ○松枯れによる倒木処理の要望がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 森林及び里山の保全	市民、市内の自然	森林(里山)が保全される	山林面積	実績値							
				%	67.7	67.2	63.6				
② 環境保全に関する意識の啓発	市民	自然環境保全の意識を高める	自然環境を守る行動を行った事のある市民の割合	実績値	70.6	70.4	68.5				
				%							
③ 森林及び里山の活用	市民、市内の自然	憩いの場として活用する	市内の森林(里山)が憩いの場として活用されていると答えた市民の割合	実績値	23.3	24.1	24.2				
				%							
④				実績値							
				%							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	23年度実績	24年度実績	25年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	14	13	12
②施策事業費(一般財源以外)	千円	26,304	14,941	17,512
③施策事業費(一般財源)	千円	25,362	24,467	27,485
④施策事業費の計(②+③)	千円	51,666	39,408	44,997
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	8,223	8,479	8,716
⑥ 計 (④+⑤)	千円	59,889	47,887	53,713

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
事務事業	林道整備事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
事務事業	森林機能緊急回復整備事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
事務事業	身近なみどり整備事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
事務事業	林道清掃管理業務委託事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
事務事業	水辺空間管理運営事業	H24年度貢献度評価上位

施策番号	409	施策名	自然環境の保全	主管課	農林課
------	-----	-----	---------	-----	-----

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・自然環境を守る行動を行った事のある市民の割合は、19年度67.3%・20年度71.8%・21年度71.2%・22年度70.6%・23年度70.4%・24年度68.5%となり20年度からは、環境を守る行動をとった人の割合は、わずかに低下している。</p> <p>・市内の森林が憩いの場として活用されていると回答した人は、19年度22.3%・20年度23.1%・21年度22.7%・22年度23.3%・23年度24.1%・24年度24.2%となりわずかに増えている。</p> <p>・市民の関心も徐々に高まってきており、里山保全活動を行う市民団体もでてきている。里山保全活動の一環として植栽や下草刈り、炭焼き、散策道の整備などの活動をしている。</p> <p>・森林面積は、21年度68.8km²・22年度67.7km²・23年度67.2km²・24年度63.6km²で、21年度から5.2km²減少したが、これは平地林の減少によるものと思われる。</p> <p>・市内の湖沼では、外来種(アメリカナマズ、ブラックバス等)が繁殖し、既存の生態系に影響を与えている。</p>		

1)-②成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>・①自然環境を守る行動を行った事のある市民の割合は、24年度目標値71.0%に対し68.5%と2.5ポイント下回った。</p> <p>・②市内の森林(里山)が憩いの場として活用されていると答えた市民の割合は、24年度目標値26.0%に対し24.2%で、1.8ポイント下回った。</p> <p>・③山林面積は、24年度目標値67.3km²に対し63.6km²と3.7km²減少し目標値を下回った。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・市民や来訪者が気軽に自然とふれあうことのできる環境が不足している。こうしたなか、市民レベル(平沢、山尾、高森、雨引山)で、里山の保全活動などの、当市の自然環境の素晴らしさを再確認させるための活動が展開されており、景観や自然環境に対する関心が高まりつつある。</p> <p>・近隣団体との比較では、空間市H24年度は23年度と変わらず85.6km²。石岡市はH23年度80.0km²、H24年度77.4km²で△2.6km²。桜川市は23年度67.2km²、H24年度63.6km²で△3.6km²であり、他の自治体とほぼ同水準といえる。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか、その他の特徴は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・総合計画策定時のアンケート調査では、この施策における住民の満足度は平均よりやや低く、優先度は平均よりかなり低い位置にあり、要注意項目となっているが、自然環境にも、徐々に関心が高まってきており、里山保全に関心を持つ活動団体も出てきている。</p> <p>・国全体で自然環境保全、エコに関する関心は高くなってきている。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>・24年度においては、市民と森林を重点対象に、「森林(里山)が保全される」「自然の里山を整備(維持管理)する」ことに重点的に取り組んだ。</p> <p>・事務事業貢献度評価の結果から、貢献された事務事業は「林道整備事業」「森林機能緊急回復整備事業」「身近なみどり整備事業」であった。</p> <p>・「林道整備事業」は林道全線の草刈り・平野線の改築工事、端上線の舗装工事、酒寄線の改良工事、丸山線の補修工事を行い林道としての機能の向上を図った。</p> <p>・「森林機能緊急回復整備事業」は森林湖沼環境税を活用し、民有林の間伐作業を行い、森林のもつ公益的機能の向上を図った。</p> <p>・「身近なみどり整備事業」は枯れ木の伐採及び里山の森林整備を実施した。</p> <p>・その他の事務事業では、</p> <p>・「水辺空間管理運営事業」は岩瀬地区全長1キロの河川敷の草刈り年3回、遊歩道の街灯設置、除草シートの設置を行った。</p>
-------------	---

8. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策全体	<p>・桜川市では、里山保全活動を行う市民団体もでてきており、植栽や下草刈り、炭焼き、散策道の整備などの活動をしている。</p> <p>・森林面積は現状水準を維持しているが、林業としては成り立っていない。それとともに森林が荒廃し森林の持つ公益的機能が果たせなくなっており、山際地域でのイノシシ被害等の要因ともなっている。</p> <p>・健康志向により自然の中を散策するような人が増え、気軽に自然とふれあう余暇活動の場として活用されるようになった。</p>	<p>・森林の持つ公益的機能回復のため、里山保全活動をする市民団体等の活動の拡大などを促進することや、市民への環境意識の啓発に取り組む必要がある。</p> <p>・森林や里山は気軽に自然とふれあう余暇活動の場として活用されていることから、自然環境の保全と活用のバランスを保つことが重要となっている。</p>
基本事業	<p>①森林及び里山の保全</p> <p>・森林面積は現状水準を維持しているが、林業としては成り立っていない。森林が荒廃し森林の持つ公益的機能が果たせなくなっているため、国・県からの補助を受けて間伐・下刈り・植栽等を進め環境保全に力を入れていく必要がある。</p>	<p>森林及び里山の適切な管理をするため、森林の除間伐、林道の整備、乱開発の抑制を行います。</p>
	<p>②環境保全に関する意識の啓発</p> <p>・森林価値が下がり、山林へ立ち入ることが激減したことで、人の目が届かず不法投棄が増えている。防止の看板等を設置すると逆効果になる場合もあり頭の痛いところである。(環境対策課)</p>	<p>林道等から不法投棄された物を撤去し、環境保全の意識啓発に取り組みます。</p>
	<p>③森林及び里山の活用</p> <p>・森林公園の下刈り等を行い自然とふれあいが出来るよう維持管理する必要がある。</p>	<p>森林公園の維持管理を行い、市民や来訪者が気軽に自然と触れ合う余暇活動の場としての活用を図ります。</p>